科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義ⅢⅢA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	樋口一葉研究						
授業の概要	樋口一葉について考える。『たけくらべ』の初出、再掲の過程を追うとともに、映画化や漫画化の諸相、変容のありさまをも視野に収める。						
到達目標	樋口一葉について考えることを通じて、日本文学全般への理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代文学と古典 第3回 樋口一葉のこと 第4回 奇蹟の14ヶ月 第5回 初出誌と再掲誌 第6回 『たけくらべ』 1~3章 第7回 『たけくらべ』 4~6章 第8回 『たけくらべ』 7~8章 第9回 『たけくらべ』 9~10章 第10回 『たけくらべ』 11~12章 第11回 『たけくらべ』 13~14章 第12回 『たけくらべ』 15~16章 第13回 後代への影響 第14回 今に生きる一葉 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	19世紀から20世紀にかけての小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%。						
教科書	山本洋編『樋口一葉集』和泉書院 ISBN：978-4-87088-111-2						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義ⅡIB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	樋口一葉研究						
授業の概要	引き続き、樋口一葉について考える。『十三夜』『わかれ道』『にごりえ』『大つごもり』を読み進める。						
到達目標	明治二十年代の文学状況、社会の有様を知ることにより、現在の我々が直面する問題への理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『十三夜』のこと 第3回 十五夜と十三夜 第4回 恋愛と婚姻 第5回 『わかれ道』のこと 第6回 差別問題 第7回 悲惨小説 第8回 『にごりえ』のこと 第9回 女の仕事 第10回 家族の問題 第11回 子供の問題 第12回 『大つごもり』のこと 第13回 短編小説 第14回 小説の終わり方 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	19世紀から20世紀にかけての小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%。						
教科書	山本洋編『樋口一葉集』和泉書院 ISBN：978-4-87088-111-2						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IA						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語音韻史。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく論文講読。						
到達目標	日本語音韻史の概要を知る。 音韻変化の一般性を掴むことができるやうに成る。 古典に關する文獻學的知識を身に付ける。 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 受講生を中心とする論文講読 (1): 音と文字の関係 03: 受講生を中心とする論文講読 (2): 漢字音の歴史 04: 受講生を中心とする論文講読 (3): 假名の歴史 05: 前半のまとめ 07: 受講生を中心とする論文講読 (4): 五十音圖の歴史 08: 受講生を中心とする論文講読 (5): 母音の歴史 09: 受講生を中心とする論文講読 (6): 子音の歴史 10: 中盤のまとめ 11: 受講生を中心とする論文講読 (7): 音素體系の歴史 12: 受講生を中心とする論文講読 (8): アクセントと聲調の違い 13: 受講生を中心とする論文講読 (9): アクセントの歴史 14: 受講生を中心とする論文講読 (10): 音節構造の歴史 15: 後半のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	講読用資料作成。 論文讀解。 授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	演習。						
評価基準と評価方法	學術發表: 40% 質疑應答: 20% 學期末報告書: 40% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書							
参考書	沖森 卓也 (編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾 (2010)『日本語史概説』、朝倉書店 高山 倫明・木部 暢子・松森 晶子・早田 輝洋・前田 広幸 (2016)『音韻史』、朝倉書店 樺島 忠夫 (1979)『日本の文字—表記体系を考える—』(岩波新書・黄版75)、岩波書店 馬淵 和夫 (1993)『五十音圖の話』、大修館書店						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IB						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法史。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく論文講読。						
到達目標	日本語文法史の概要を知る。 文法変化の一般性を掴むことができるやうに成る。 古典に關する文獻學的知識を身に付ける。 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 受講生を中心とする論文講読 (1): 名詞形態論 03: 受講生を中心とする論文講読 (2): 格 04: 受講生を中心とする論文講読 (3): 主題、取り立て 05: 前半のまとめ 07: 受講生を中心とする論文講読 (4): 動詞形態論 08: 受講生を中心とする論文講読 (5): 形容詞形態論 09: 受講生を中心とする論文講読 (6): 活用體系 10: 中盤のまとめ 11: 受講生を中心とする論文講読 (7): 態 (Voice) 12: 受講生を中心とする論文講読 (8): 相 (Aspect) 13: 受講生を中心とする論文講読 (9): 時制 (Tense) 14: 受講生を中心とする論文講読 (10): 法 (Mood) 15: 後半のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	講読用資料作成。 論文講読。 授業は豫習 (= 事前読書) を前提に進める。						
授業方法	演習。						
評価基準と評価方法	學術発表: 40% 質疑応答: 20% 學期末報告書: 40% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書	無し。						
参考書	沖森 卓也(編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾(2010)『日本語史概説』、朝倉書店 小田 勝(2015)『実例詳解 古典文法総覧』、和泉書院						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IIA						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	・授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 学校文法について 3. 品詞①（用言） 4. 品詞②（体言） 5. 品詞③（付属語） 6. 語順①（形態的類型論） 7. 語順②（文法カテゴリー） 8. 語順③（数量詞） 9. 活用①（活用の種類） 10. 活用②（接辞） 11. 述語と項①（意味役割） 12. 述語と項②（格の階層性） 13. ヴォイス①（受身、使役） 14. ヴォイス②（その他） 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。また、授業時に課題を課すことがある。						
授業方法	基本的には講義形式。ただし、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%、レポート50%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅡB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。授業計画の内容について講義形式で行っていくが、相互にやりとりをしながら進めていきたい（その中で、ちょっとした課題を課し、発表してもらうこともあり得る）。						
到達目標	・授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 授受表現 3. テンス 4. アスペクト①（テイル形） 5. アスペクト②（方言のアスペクト） 6. ムード①（対事的） 7. ムード②（対人的） 8. 連体修飾 9. 副詞と連用修飾 10. 複文 11. 主語と主題 12. 造語法 13. 指示詞 14. 語用論 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。また、授業時に課題を課すことがある。						
授業方法	基本的には講義形式。ただし、一部演習形式を取ることもある。						
評価基準と評価方法	参加度50%、レポート50%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 SLA研究とはどんな学問か 第3回 近年のSLA研究 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの方法 第6回 SLA研究の種類 第7回 先行文献の集め方 第8回 先行文献の読み方 第9回 研究テーマの設定の方法 第10回 リサーチプランの作成 第11回 リサーチプランの構成 第12回 研究テーマの発表1 第13回 研究テーマの発表2 第14回 研究テーマの発表3 第15回 振り返りとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連領域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 研究の背景の書き方 第3回 研究の目的・研究課題・仮説 第4回 研究の方法 第5回 研究データの集め方 1 反応時間データ 第6回 研究データの集め方 2 コーパスデータ 第7回 実験実施上の留意点 第8回 データ集計の方法 1 第9回 データ集計の方法 2 データ入力 第10回 データ集計の方法 3 エクセルを使った集計 第11回 結果から結論・考察の導き方 第12回 研究テーマの発表 1 第13回 研究テーマの発表 2 第14回 研究テーマの発表 3 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表；授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIA／国文学演習IIA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	近代出版文化の諸相						
授業の概要	近代日本の出版文化について理解を深め、現在に生きる我々の生活を見直す一助とする。						
到達目標	出版の諸相を理解することで、学問することの本質、伝える難しさを実感し、以後の研究生活の糧とすることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代文学とは？ 第3回 石田衣良のこと 第4回 文学賞の問題 第5回 文学賞審査員の問題 第6回 本屋と出版社 第7回 定価の問題 第8回 印刷の方法 第9回 流通の問題 第10回 雑誌の問題 第11回 新聞の問題 第12回 編集者のこと 第13回 小説の終わり方 第14回 編集者のこと 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	数多く本を読み、本屋・古本屋に足を運ぶこと。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	石田衣良『チッチと子』 毎日新聞社 ISBN: 4620107468						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IIB／国文学演習IIB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	無頼派作家研究						
授業の概要	太宰治が昭和23年の3月から5月にかけて執筆した小説を、直筆原稿→初出誌「展望」昭和23年6月号～8月号→初刊本『人間失格』の過程を追うとともに、映画化や漫画化の諸相、変容について考える。						
到達目標	太宰治『人間失格』について考えることを通じて、近現代の文学への理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 無頼派とは 第3回 太宰治のこと 第4回 『人間失格』 「はしがき」 第5回 『人間失格』 「第一の手記」 導入 第6回 『人間失格』 「第一の手記」 発展 第7回 『人間失格』 「第二の手記」 導入 第8回 『人間失格』 「第二の手記」 発展 第9回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 導入 第10回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 応用 第11回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 発展 第12回 『人間失格』 「第三の手記」 「二」 導入 第13回 『人間失格』 「第三の手記」 「二」 発展 第14回 『人間失格』 「あとがき」 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	「太宰治全集 9」（ちくま文庫） ISBN: 978-4-480-02259-2 JANコード: 9784480022592						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A/国文学史特殊講義A						
担当教員	三木 麻子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学史の研究						
授業の概要	我が国の古典文学の基盤である和歌文学の史的展開について講義する。記紀歌謡や『万葉集』に始まり、『古今集』以下の勅撰和歌集の撰集、種々の私家集の編纂など、我が国の韻文の歴史をを跡付ける。特に平安時代に興隆する勅撰集の歴史につれて展開する仮名文学の世界について、屏風歌や歌会、歌合などの和歌活動に注目する。また、平安時代後期から鎌倉時代の歌論の展開を通して、和歌文学の実態と理論の歴史について考察する。						
到達目標	和歌文学の成立や享受の様相を理解し、論じることができる。						
授業計画	第1回 記紀歌謡と万葉集 第2回 国風暗黒時代の和歌 第3回 勅撰集の歴史と私撰集 第4回 古今和歌集について 第5回 屏風歌について 第6回 歌合について 第7回 私家集について 第8回 後撰和歌集と拾遺和歌集について 第9回 平安初期の歌学 第10回 後拾遺集・千載集の仮名序 第11回 新古今和歌集について 第12回 新古今時代の歌合と歌論 第13回 二条・京極・冷泉家の分立について 第14回 鎌倉時代の勅撰和歌集について 第15回 室町時代の勅撰和歌集について						
授業外における学習（準備学習の内容）	和歌文学史の流れが理解できるよう、具体的な作品も読むようにすること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 70% 小テスト 20% 授業に対する取り組み 10%						
教科書	日本古典文学史（乾安代ほか）双文社出版 ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B／国文学史特殊講義B						
担当教員	三木 麻子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	散文学史の研究						
授業の概要	物語文学の史的展開について講義する。『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめとし、日本古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』などの特質を論じ、さらに歴史物語や擬古物語について検討する。また、評論のなかで物語などの散文学がどのように捉えられ、享受されてきたかを考察する。						
到達目標	物語文学の成立や享受の様相を理解し、論じることができる。						
授業計画	第1回 物語文学史の概観 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について (1) 歌物語の成立 第5回 伊勢物語について (2) 歌物語の享受 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について (1) 源氏物語の文体 第8回 源氏物語について (2) 後代への影響 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習（準備学習の内容）	物語文学史の流れが理解できるよう、具体的な作品も読むようにすること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート 70% 小テスト 20% 授業に対する取り組み 10%						
教科書	日本古典文学史（乾 安代ほか）双文社出版 ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IA／国文学特殊講義IA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の生成について						
授業の概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』について探究する。 特に、他の文献との比較などを通して、『伊勢物語』自体がどのようにして作られたかを考察する。						
到達目標	文献を使って、『伊勢物語』の生成の過程を説明できる。 『伊勢物語』の文学史における位置を説明できる。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『伊勢物語』の概説講義 第2回 『伊勢物語』の構成についての講義 第3回 『伊勢物語』の伝本についての講義 第4回 『伊勢物語』の注釈史についての講義 第5回 『伊勢物語』の生成についての講義 第6回 『伊勢物語』第1段についての講義 第7回 『伊勢物語』第4段についての講義 第8回 『伊勢物語』第5段についての講義 第9回 『伊勢物語』第6段についての講義 第10回 『伊勢物語』第9段①についての講義 第11回 『伊勢物語』第9段②についての講義 第12回 『伊勢物語』第12段についての講義 第13回 『伊勢物語』第23段①についての講義 第14回 『伊勢物語』第23段②についての講義 第15回 期末テストと『伊勢物語』の生成についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『伊勢物語』についての研究書を読む。 『伊勢物語』の生成について理解できるよう、考察を深める。						
授業方法	講義を主とするが、受講生の調査・研究したものの発表も求める。						
評価基準と評価方法	授業の取り組み（調査・研究したことについての発表）50% 期末テスト 50%						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院）						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IB／国文学特殊講義IB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の享受について						
授業の概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』について探究する。特に、後世の註釈書や絵巻・絵本も視野に入れて、『伊勢物語』がどのようにして享受されて来たかを考察する。						
到達目標	他の文献を通して、『伊勢物語』の享受の様相を説明できる。 『伊勢物語』の文学史における位置を説明できる。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の後世への影響についての講義 第2回 『伊勢物語』第41段についての講義 第3回 『伊勢物語』第63段についての講義 第4回 『伊勢物語』第69段①についての講義 第5回 『伊勢物語』第69段②についての講義 第6回 『伊勢物語』第82段①についての講義 第7回 『伊勢物語』第82段②についての講義 第8回 『伊勢物語』第83段についての講義 第9回 『伊勢物語』第87段①についての講義 第10回 『伊勢物語』第87段②についての講義 第11回 『伊勢物語』第99段についての講義 第12回 『伊勢物語』第107段についての講義 第13回 『伊勢物語』第123段についての講義 第14回 『伊勢物語』第125段についての講義 第15回 期末テストと『伊勢物語』の享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『伊勢物語』についての研究書を読む。 『伊勢物語』の生成について理解できるよう、考察を深める。						
授業方法	講義を主とするが、受講生の調査・研究したものの発表も求める。						
評価基準と評価方法	授業の取り組み（調査・研究したことについての発表）50% 期末テスト 50%						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版）						